学校教育目標 「心は一つ八景小！ 自分らしさを発揮し、認め合い、思い合い豊かに生きることができるようにします」

1月 学校だより

令和6年1月9日
横浜市立八景小学校
校 長 中川 琴似

https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hakkei/

人間だけ

校長 中川 琴似

ゴリラ 脳:500cc

いきなりですが、人類の脳が現在の大きさに達したのは、いつだと思いますか？
約 40 万年前、言葉を話し始めるよりずっと前です。
アフリカのタンザニアで発見された化石で脳の容積は200万年前から600ccとなり、ゴリラの500ccを超えました。

ホモ・ハビリス（200万年前）
脳:600cc

人類学者・進化生物学者のロビン・ダンバーによれば、霊長類では脳の容積と群れの個体数は比例するそうです。
私たちの脳が認識できるのは約150人。その範囲内で協力する「仲間意識」がもてます。それ以上の人数になると、争いを避けたり、全員をまとめたりするには「規律」「ルール」「ノルマ」などが必要になってきます。

ホモ・ハイデルベルゲンシス
（40万年前）脳:1400cc

私たちの祖先は、熱帯雨林から危険な草原に出て、生活を共同で行うための仲間が必要になりました。以来、人類は付き合う仲間を増やす方向に進化してきました。言葉が7～10万年前に現れ、6万年前から世界各地に移動し、農耕牧畜が1万 2000 年前くらいに始まりました。
言葉が現れ始めたころ、火山による気候変動で、人類は絶滅しそうになります。それまで祖先たちは、身内の仲間だけで行動していましたが、この大噴火を境に遠く離れた集団と資源を交換し合うようになりました。
今までにない危機で赤の他人とも協力し合う、現代にも通じる人間らしさがこの時から発揮されました。人間だけの特性である「思いやり」を獲得したのです。

アフリカを離れ世界へ広がり始めた人類ですが、世界は凍てつく氷期。大きな苦難の連続でした。その中で離れた位置から獲物を倒す「飛び道具」の技術が狩猟方法を革新し、その力は人類の集団のあり方にも影響を与えました。罪を犯した者を罰する道具として使うことで、規律を強化し、集団は数千人の規模にまで拡大しました。
さて、もとは平等だった人間社会も集団が大きくなり、都市とお金の進化にともない、格差の拡大という難問がでてきます。公平さの葛藤は今の世界もありますが、意外？にも、脳の「思いやり」機能は現代人にも受け継がれています。ある実験結果では、国や文化に関係なく5割を超える人は「自分だけ得をする」行動をしません。私たちの脳は関係のない他人であっても「相手も得をする」を見て、快物質を生じさせるようです。

森を出て草原に立った最初の人類と私たちは、一度も途切れることなく命をつないでいます。誰もが共通して持つ「人間らしさ」は200万年という進化の過程で祖先から受け継いだものです。
獲得した「思いやり」を駆使して、人類がずっと成しとげてきた「多様な人とのつながり」を実現する。

2024 年はこのことを意識できたら、と思っています。